

第4学年 音楽科学習指導案

＜実践の概要＞

曲想をつくっている楽器の音色やリズムを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くことができるように次の手立てを行う。

- ① 激しさを表現している部分と穏やかさを表現している部分とを分けて聞かせた後に演奏している楽器を問う。
 - ② 先の①の児童の発言を板書で整理し、激しさや穏やかさとそれをつくっている楽器との関係をはっきりさせる。
 - ③ DVDの映像を視聴させながら、楽器の演奏のまねをさせる。
- * 補足的な手立てとして、日常的に行っている「音楽を表現する言葉」（資料1 参照）を活用させる。児童は、このマップを参考にすることで曲の感じを言葉で表現しやすくなる。

- 1 題材名** 曲の気分を感じ取ろう（全2時間）
 （教材名 剣の舞～バレエ音楽「ガイーン」より～
 作曲者 アラム・ハチャトゥリアン
 使用教材 DVD
 指揮：小澤 征爾 演奏：ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団）

- 2 題材の目標**
 音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを理解し、それらを手がかりとして曲全体を味わって聴くことができる。

3 題材の評価規準

		ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準		音楽を進んで聴き、楽曲全体の曲想やその変化の様子を感じ取ろうとしている。	曲想の変化を感じ取って聴いている。	/	楽曲の構造を理解し、楽曲全体を味わって聴いている。
	具体の評価規準	第1時 ①反復するリズムを見つけようと進んで音楽を聴いている。＜鑑賞＞	①反復するリズムに気づき、AとBの曲想の違いを感じ取っている。＜鑑賞＞	/	/
	第2時	/	②楽器と音色の違いによる曲想の変化を感じ取っている。＜鑑賞＞	/	①楽曲の特徴が表れるように体を動かしながら聴いている。＜鑑賞＞

4 題材設定の理由

(1) 本題材と新学習指導要領とのかかわり

本題材は、新学習指導要領の第3学年及び第4学年の以下の指導事項を受けて設定した。

B 鑑賞

- (1) ア 曲想とその変化を感じ取って聴くこと。
- イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くこと。
- ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付くこと。

[共通事項] ア (ア) 音色, リズム (イ) 反復, 変化

(2) 児童の実態

朝の会では、今月の歌以外にリクエストコーナーを設け、歌集「みんなのうた」の中から、毎日1～2曲程度を歌っている。曲のリクエストは全児童に順番にまわってくる。その際、その曲が好き理由を「音楽を表現する言葉」を用いて発表するようにしている。自分が感じたことを「音楽を表現する言葉」の中から選んで表すことはできるが、その言葉に比喩的表現を加えるなどして、より豊かに表現することはまだできていない。

楽曲を聴く時には、観点をもって曲を繰り返し聴くことを通して、その曲に対するイメージを、どの子供ももつことができるようになってきた。しかし、子供が抱くイメージは、まだ曲の一部に対してだけであり、曲全体にわたる曲想を感じ取る段階にまで達していない。

また、反復、問いと答え、変化などの音楽の仕組みの働きに着目して、音楽を特徴付けている要素と音楽の仕組みのかかわり合い、すなわち楽曲の構造にまで意識を向けている子供はほとんどいない。

これまで、「ふしのとくちょうを感じ取ろう」の題材で「あいのあいさつ」と「ピチカート ポルカ」を鑑賞した。その際、バイオリンを弾くまねをしたり、それぞれの曲の感じを表すような指揮まねをしたりして「なめらかな感じ」と「はずむ感じ」を捉えてきた。また、「あいのあいさつ」では、A-B-A形式の再現による反復についても触れている。更に「ピチカート ポルカ」では、バイオリンの奏法による音色の違いについて学習した。

鑑賞曲「とんび」では、木管楽器（フルート・オーボエ、クラリネット）の音色を聞き分けることができた。子供たちは楽器やその音色についてとても興味をもっている。

(3) 教材選択の理由及び指導の構想

前述の児童の実態から、本題材では楽曲全体の構造に気付いたり、楽曲全体を味わって聴いたりする活動を進めていきたいと考える。そこで教材曲には、バレエ組曲ガイーンより『剣の舞』を取り上げた。

この楽曲は、木琴などの楽器で激しさを表現している主題Aから始まり、中間部でチェロやサクソフォンによる穏やかな旋律（主題B）に変化する。AとBの違いは歴然としているので、容易に曲想の変化に気付かせることができる。

また、主題Aでは木琴で演奏される小気味よいリズムが楽曲全体で7回出てくる。このリズムの反復に着目させ、リズムが出てくる箇所を音直線に書き入れることを通して、A-B-Aの三部形式に見られる再現による反復という音楽の仕組みの面白さを味わわせる。

DVDの視聴では、視聴しながら体の動きを伴った活動をさせることにより、楽曲の特徴をどの子供にも確実にとらえさせていきたい。

この楽曲は、演奏時間がおよそ2分20秒と短く、授業時間内に曲全体を何回も聴くことができる。また、テンポが速く活動的な曲なので、元気な4年生の子供たちが楽しく体を動かしながら聴くことができると考えた。

5 指導計画・評価計画

次	時	○学習内容・学習活動	◆教師の働きかけ ◇評価、＜評価方法＞
1	1	<p>○『剣の舞』を聴き、曲想の変化を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『剣の舞』を聴き、どんな様子が思い浮かぶか話し合う。 ・剣を持って踊るイメージを基に体を動かしながら聴く。 ・動きの変化から、曲想の変化を感じ取る。 ・A、B それぞれの部分の感じを言葉で表現する。 ・主題 A のリズムが出てくる箇所を音直線に書く。 ・音直線を見て気付いたことを話し合い、主題のリズムが曲想と関係していることに気付く。 	<p>◆曲名を知らせないで聴かせ、子供がイメージをふくらませることができるようにする。</p> <p>◆『剣の舞』の A と B の部分を聴かせ、どんな様子が思い浮かぶか想像させる。</p> <p>◆曲名とバレエのために作られた曲であることを知らせ、体を動かしながら聴くように促す。</p> <p>◆曲想の変化を感じ取って、B の部分で動きを変えた子供を全体に紹介し、曲想の変化を全員に感じ取らせる。</p> <p>◇ 反復するリズムを見つけようと進んで音楽を聴いている。 アー①＜活動の様子を観察、ワークシート＞</p> <p>◇反復するリズムに気づき、A と B の曲想の違いを感じ取っている。 イー①＜活動の様子を観察＞</p>
	2	<p>○曲想と音色とのかかわりに気づき、曲全体を味わって聴く。</p> <p>＜本時の学習参照＞</p>	<p>◆音直線を用いて前時の学習を想起させる。</p> <p>◆「はげしい」と「おだやか」それぞれの部分を演奏している楽器は何か？と問いかけ、音色に着目させる。</p> <p>◆ DVD を視聴し、楽器とその音色を確認させたり、演奏するまねをさせたりしながら聴かせる。</p> <p>◆音直線の板書を使い、「はげしい」や「おだやか」の部分に使われた楽器を整理する。</p> <p>◇楽器と音色の違いによる曲想の変化を感じ取っている。イー②＜発表・活動の様子を観察＞</p> <p>◆ワークシートにこの曲のすてきなところはどんどこかを書かせる。</p> <p>◆楽器を演奏したり、指揮をしたりするまねをしながら聴かせる。</p> <p>◇楽曲の特徴が表れるように体を動かしながら聴いている。エー①＜活動の様子を観察＞</p>

6 本時の学習（2 / 2時間）

(1) ねらい

曲想と音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みとのかかわりを考えながら、曲全体を味わって聴くことができる。

(2) 指導の構想

前時は、音楽を特徴付けている要素の一つであるリズムに着目して、主題Aと主題Bの曲想の違いを感じ取った。また、そこからA－B－Aの三部形式に見られる再現による反復にも気付いている。本時では、更に曲想の違いを聴き深めるために、楽器とその音色に着目させる。そうすることで、音楽を特徴付けている要素がかかわり合っ曲想に表れていることを感じ取らせたい。

また、A－B－Aの三部形式に見られる再現による反復もよりはっきりと感じ取ることができる。それらに気付くことによって、楽曲全体への理解が深まり、楽曲全体を味わって聴くことができるようになると考える。

「聴く活動」や「かかわる活動」については、以下のような工夫を図った。

① 観点を明確にして聴かせる。(聴 1)

曲想を特徴付けている要素の中から「楽器」とその「音色」に絞って聴かせる。前時にとらえた「はげしい」部分と「おだやか」な部分を分けて聴かせることで、「音色」と曲想のかかわりに気付かせたい。

② 板書で児童の発言を整理し、「はげしさ」と「おだやかさ」をそれをつくっている楽器との関係を明らかにする。(聴 1)

曲の感じとそれを特徴付けている楽器との関係を板書によってまとめる。児童は、これにより楽器と音色との関係をとらえていけるであろう。

<板書イメージ>

	1の部分	2の部分	3の部分
感じ	はげしい感じ	おだやかな感じ	はげしい感じ
楽器	木琴 トロンボーン	チェロ サクソホン	木琴 トロンボーン

③ DVDを活用する。(聴 1)

DVDを視聴して、使われている楽器を視覚的に確かめたり、その奏法に気付かせたりする。また、この活動が楽器を演奏するまねをする活動の助けとなるようにする。

④ 楽器を演奏するまねをさせながら聴かせる。(聴 2)(か 2)

鑑賞のまとめとして、曲のいいところ、おもしろいところ、すてきなところはどんなところかを問う。その後、児童の発言をまとめる。

次に、自分が感じたことを確認した上で、激しい部分、穏やかな部分に分けて、映像と音を視聴しながら楽器の演奏のまねをさせる。体の動きを伴った活動につなげることで今まで学習したことを自分の中で整理して、楽曲の構造を考えながら深く聴くことができると考える。

また、クラス全体を半分に分けて互いに相手の動きを見ながら聴き合う活動を動かす。体を動かしながら聴く友達の姿を見ることにより、自分の考えを強化したり、新たな視点を取り入れたりすることも期待できる。ここに、楽曲全体を味わって聴いている子供の姿が表出される。

(3) 展開

学習活動	○教師の働き掛けと予想される子供の反応	・留意点 ◇評価
1 前時の学習を想起し本時の課題をつかむ。(5分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">『剣の舞』の「はげしい」や「おだやか」の基になる、楽器の音色に注目して聴こう。</div> ○ 細かいリズムのところは何の楽器で演奏されているか考えながら聴こう。〈音:Aのみ〉(聴 1) ・木琴かな。 ・フルートみたいな音がする。 ○ DVDを見て確かめよう。〈音+映像:木琴のみ〉(聴 1) ・やっぱり木琴だったんだ。	・掲示物を使って、前時の学習を振り返る。 ・楽器の写真と名前が分かる掲示物を用意する。 ・教師が演奏のまねをすることで、子供たちにも演奏のまねをするように促す。
2 曲想と音色のかかわりについて考える。	○ 他にはどんな楽器の音がするかな。〈音:Aのみ〉(聴 1) ・トロンボーンが出てくる。 ・太鼓みたいな音も聞こえるな。	◇楽器と音色の違いによる曲想の変化を感じ取っている。1-②<発表・活動の様子を観察>

(25分)

- DVDを見て確かめよう。(聴 1)
 - ・やっぱりトロンボーンだった。〈音+映像:Aのみ〉
- 「おだやか」のところはどんな楽器の音がするかな。
 - 〈音:Bのみ〉(聴 1)
 - ・チェロ ・バイオリン ・サクソフォン
- DVDを見て確かめよう。〈音+映像:Bのみ〉(聴 1)
 - ・チェロだったのか。
 - ・あの楽器は、サクソフォンという名前なのか。
- 太鼓の音が聞こえると言っていた人がいたね。確かめてみよう。〈音:A&Bのみ〉(聴 1)
 - ・ティンパニという名前なんだな。
 - ・Aは強くてBは弱いな。
- DVDを見て、楽器を演奏するまねをしながら聴こう。
 - 〈音+映像:全部〉(聴 1)
 - ・トロンボーンの「パ〜オ」が面白い。
 - ・ティンパニは、ずっと出てるな。
 - ・チェロのなめらかな部分が好きだな。

3 楽曲のよさやおもしろさを考えながら、曲全体を味わって聴く。(15分)

『剣の舞』のよいところ、おもしろいところ、すてきなところがよく表れるように、楽器を演奏するまねをしながら聴こう。(聴 2)(か 2)

- 『剣の舞』のよいところ、おもしろいところ、すてきなところをワークシートに書いてみましょう。
 - ・木琴の細かいリズムがいい。はげしくやりたい。
 - ・トロンボーンの「パ〜オ」が面白い。はげしくやる。
 - ・チェロのやわらかい音が好き。おだやかに弾きたい。
- 二つのグループに分かれて聴き合おう。〈音:全部×2〉(聴 2)(か 2)
 - ・□□さんの「パ〜オ」は、音楽と合っているな。
 - ・木琴とバイオリンを両方やってもいいんだな。
- 最後にみんなで演奏のまねをしながら聴こう。
 - 〈音+映像:全部〉(聴 2)
 - ・楽器や音色によって、感じが違ってくるな。
 - ・最初と最後の激しい部分が好きだな。

Aと判断する場合の具体例(キーワード)
 ・楽器と音色・リズム・感じ等を結びつけている。
 Cと判断される状況への働きかけ
 ・好きな楽器を選ばせ、なぜ好きかを考えさせる。

- ・AとBのそれぞれの部分に出てきた楽器が分かるように、音直線に写真をはるなどして確認する。
- ・ティンパニの実物を用意する。

- ・指揮者をまねる子がいたら、それも認める。

- ・曲のよさやおもしろさ、楽しさをワークシートに書かせ、どんな動きを付けながら聴くのか整理させる。
- ・よさがよく表れていた子供を取り上げ、全員に紹介する。

◇楽曲の特徴が表れるように体を動かしながら聴いている。

エー①<活動の様子の観察・ワークシート>

Aと判断する場合の具体例(キーワード)
 ・体の動き、言葉の両方で表現している。
 Cと判断される状況への働きかけ
 ・楽器を写真から選ばせる。
 ・友達の様子をまねさせる。